



湊の風

八戸市立湊中学校
学校通信 第1号
平成28年6月3日
文責：前田篤志
北山勝則

「思いやり」と「認め合い」で、湊中生は『群れ』から『集団』になる

校長 北山勝則

平成28年度がスタートして、2ヶ月が過ぎました。今年度、湊中学校は創立70周年を迎えます（湊小出身の中1は、去年も湊小で140周年なので、やたらめでたい学年ですね）。この記念すべき年に湊中の職員であることを幸運に思います。本校PTA役員の方々で組織した実行委員会の立ち上げも終わり、現在は、協賛会の皆さんが寄付活動に動いてくださっているところです。11月24日の式典や祝賀会は、一大イベントとなります。実行委員だけでは運営できません。役員以外の保護者の皆さんにもいろいろなお手伝いをお願いしたいと思っています。お忙しいと思いますが、お力をお貸しください。

さて、1次テストも終わり、運動部にとっては集大成となる市中体夏季大会がいよいよやってきます。大会に向けて文化部も動いています。書道部はメガホンへの湊魂の文字入れ、美術部は各部ごとのオリジナル部旗を作成してくれています。吹奏楽部は、応援と吹奏楽コンクール練習を同時進行で取り組んでいます。このように、全校生徒が熱く燃え始めています。まさに、湊中生が一丸となって戦う時がやってきました。

しかし、この一分一秒が惜しまれる大切なときに、いろいろな顧問から、感情コントロールをできないために、言い争いややる気が感じられない状態に陥ってしまっている生徒の報告をもらっています。湊中生は、心が熱く燃えやすい素晴らしさを持っていますが、「嫌だから」とか「だって、自分の好きなようにやりたいから」などの自分の感情優先な考え方になってしまう弱点も持っています。自分の考えを持ち、自分で判断することはいいことです。しかし、自分の考えや行動が、周りの人の迷惑にならないかどうかを考えて判断すべきなのです。正しい判断は、「集団」となるための絶対条件です。判断を誤ると、「群れ化」してしまいます。この「群れ」と「集団」の違いは、次のように考えます。

「群れ」…力で押さえつけるボスがいいて、周りの者がいつもご機嫌伺いをし、何かあると誰かが

何とかしてくれることを期待し、失敗するとその人を馬鹿にし、笑う。それぞれが、自己防衛のために勝手に判断して行動し、ワガママや自己中心の考え方が横行する。一部のワガママ連中が中心になり、ほとんどの者がいつも周りに脅え、弱い者や力のない者が押しつけの代表やターゲットになる。しっかり者や気の利くやさしい者に苦労が集中し、最後には全体にやる気のないムードが漂う。目つきが自然に上目遣いになり、目を盗んで行動する者が多い。自分に甘く他人にきびしい見せかけの強者が存在する。その強者は、違う世界で出会った自分より能力のある者に見下げられ、自分のやってきたことの愚かさに気づかされる。「集団」…一人ひとりに責任意識があり、それぞれの役割と責任をつなぎ合わせているいろいろなことが成立している。お互いの立場を尊重し、できない人や遅れている人を助けるムードがある。決して人を見下げない。課題やトラブルがあっても、今、全体のために必要なことを考え、たとえ自分の主義主張があっても合わせていけるやさしさを個々が持っている。また、人間関係上の不協和音が生じて、お互いの立場を考えながら、自分たちでそれを修復していける。それぞれに自分の居場所があり、事がうまくいったときや何かを成し遂げたときの感動や成就感を共有することができる。自分にきびしく、他人に寛大な強者が存在する。

初めは「群れ」であっても、お互いを思いやり、お互いの大切さを認め合いながら1つの目標に向かえば、お互いを高め合い、安心でき、一人ひとりの居場所がある「集団」に変わっていきます。いろいろな行事を通して、今年の湊中生がどのように成長するかがとても楽しみです。

今年度の学校経営基本方針と学校目標です。特に、5の学校目標が、今年度重点的に取り組むことです。

1 校訓 「自律」「創造」「奉仕」

2 教育目標と努力目標

《教育目標》

- ① 自ら学ぶ生徒 (知)
- ② 思いやりのある生徒 (徳)
- ③ たくましく生きる生徒 (体)

《努力目標》

- ① 目標をもって学ぶひとになろう
- ② 人の気持ちのわかるひとになろう
- ③ 進んで活動するひとになろう

3 学校経営基本方針

『学校は、笑うところ。学校は、感動するところ。そして学校は、成長するところ』

生徒ひとりひとりの確かな成長を保証するため全教職員が意識を合わせ、方向性を一つにし、生徒の発達段階にあわせた仕掛けをしていきたい。その根底には、この子どもを何とかしたいという「人間愛」や「情熱」と、自分がやらないで誰がやるという「プロ意識」と「責任感」が望まれる。生徒のことを考えた、生徒のためになる指導から、自己肯定感や有用感を高め、自己理解と自分をコントロールする力を定着させたい。そして、他者を思いやる気持ちと将来を見通す力を育てたい。

(1) 目指す学校像

- ① 学習の基礎・基本の確実な定着に、生徒も教師も意欲的に取り組む湊中
(低学力生徒への相乗的な支援体制、特別支援的思考を段階的に意識して)
- ② お互いの価値を認めあい、優しさを共有し、安心して通うことができる湊中
(行事や日常生活の中でのふれあい、発見、感動、偏見排除を意識して)
- ③ 挨拶がこだまし、笑顔があふれる活力のある湊中
(生徒会活動、部活動での基本的な生活習慣の仕掛けを意識して)

(2) 目指す生徒像

- ① 粘り強く学習に取り組み、向上心に満ちた生徒 (自ら学ぶ生徒)
- ② 他者の役に立つことに価値を見だし、命の尊さが分かる生徒 (思いやりのある生徒)
- ③ 強靱な精神と身体を備えるために、忍耐強く取り組む生徒 (たくましく生きる生徒)

4 学校課題 ～生徒の変容のための重点的実践事項～

- ① 教師力向上の場面設定 (生徒指導や特別活動に加え、授業力・経営力・対応力も)
- ② 学習内容の定着と上位層対応 (ユニバーサルデザインの継続と発展課題の与え方)
- ③ 他者を思いやる心の育成と伝え方 (一体感や成就感からの振り返りと他者理解)
- ④ 粘り強さやたくましさの育成 (挫折体験等からの自己特性理解)
- ⑤ 規範意識の醸成 (根気強い道徳的意味づけと、役割分担によるチーム対応)
- ⑥ 保護者の子育て当事者意識向上 (子育て不安からの過干渉や放任の自覚と連携体制)
- ⑦ 地域の学校支援意識の活用 (地域行事への参加と情報発信)
- ⑧ 疾病治療率の向上 (2週間に1日は、治療優先の日を。部活を言い訳にさせない。)

5 平成28年度学校目標 (今年度の目標)

「静」と「動」を共有できる生徒の育成

〔重点施策〕

(1) 生徒の発達段階に合わせた指導力の向上

- ① ユニバーサルデザインの視点を生かした教科、領域への取り組みせ方の工夫
- ② 全校一斉コンテストへ効果的に取り組ませる指導の工夫 (スペリング、計算)
- ③ 家庭学習の習慣化や自主勉強ノートの質を高めさせられる指導力の向上

(2) 隣人と自分の考えを伝え合い、支え合い、認め合える集団づくりの推進

- ① 行事や部活動等の体験活動への事前の意味づけと方向性の共有化
- ② 横断的な道徳教育の実践と教材や諸検査の活用の工夫
- ③ 潜考からの自信や課題を隣人と共有し、お互いを高め合える集団づくり

(3) 基本的な生活習慣の定着や自主的な活動を発揚できるような個の力の育成

- ① 挨拶・返事・後始末などを定着させる指導
- ② 自分の役割と価値を感じさせ、自己有用感を高める指導
- ③ 失敗にめげず、何度もチャレンジし続けるたくましさの育成

